

地域の活動事例

| | |
|-----|--|
| 団体名 | 蒲田三丁目町会 |
| テーマ | スタンドパイプ設置で高める地域の「絆」 |
| 内容 | <p>○スタンドパイプセットの設置</p> <p>蒲田三丁目町会では、平成23年3月11日に発生した東日本大震災を契機に、町会内で「大災害発生時には消防署も警察署も即時に全ての災害に対応することは難しい、重要なのは身近で助け合えるコミュニティを形成しておくことだ」という共通認識が醸成された。</p> <p>そこで、初期消火活動の資器材であるスタンドパイプセット(以下「SPセット」)を専用の収納箱に格納し、町会内の消火栓付近に設置することになった。</p> <p>平成24年度からSPセット設置に伴う区道占有や土地使用について各関係機関等と折衝を行い、平成28年度から8基のSPセットを町会内各所に設置している。</p> <div data-bbox="284 976 1497 1435"><p>The image block contains three photographs. On the left is a red metal storage box for the SP set, with text including 'スタンドパイプ収納箱', 'ホース格納箱', '火事係 119', and '蒲田三丁目町会'. In the middle is a close-up of the SP set (a vertical pipe with a nozzle) inside the box. On the right is a map titled '蒲田三丁目町会スタンドパイプセット設置図' (Map of SP Set Installation in Utsunomiya 3-chomei Neighborhood Association), showing the layout of the neighborhood with red circles indicating the locations of the 8 SP sets.</p></div> <p>○SP 隊の結成</p> <p>SPセットの設置箇所ごとに、付近住民の有志5名からなる「SP隊」を組織。</p> <p>市民消防隊の協働組織として位置付け、早期火災対応体制を構築した。</p> <div data-bbox="960 1538 1465 1910"><p>The photograph shows a group of about ten people standing on a paved area outdoors. Some individuals are wearing bright orange safety vests over their clothing. They appear to be in a community setting, possibly a meeting or training session for the SP team.</p></div> |

地域の活動事例

○継続的な地域訓練の実施

S PセットやS P隊を「設置しただけ」に留まらず、毎年原則10回を目標に、市民消防隊が中心となって地域住民に対する訓練を実施。

当初は少なかった訓練参加者も、粘り強く参加を呼び掛け続けたことで、徐々に参加者が増え、今では年間300人以上が参加する訓練となった。



○人を集めるための3つの工夫

- ① 訓練実施日を、毎月第2日曜日の町会リサイクル活動（古紙回収）と町内清掃と同じ日に設定している。
- ② 周辺住民に対して、事前に訓練実施の案内を配布している。
- ③ 訓練参加者には、清掃用具など生活に役立つ参加記念品を配布している。

○今後の構想

- ① S Pセットを更に2基増設し、町会内の設置を計10基にする計画を進めている。最終的には15基まで増設し、町会区域を全て網羅できるように推進していく。
- ② 1つのS Pセットと直近の消火栓をペアとして考えるのではなく、周辺の消火栓を使用した活動もできるように、地域住民と実践的な訓練を推進していく。
- ③ 現在各隊5名で編成しているS P隊を、最終的には各隊10名で編成できるようS P隊員の増強を図っていく。最終的には、消火活動に従事する「消火チーム」と、被災者の避難誘導や救助活動に従事する「防災チーム」を編成し、様々な災害に対応できる組織にしていく。



○町会長のことば

地域防災のために始めた今回のスタンドパイプの取組だが、今では、子供から高齢者まで様々な年齢層の方々が訓練に参加し、人の輪が広がってきているのを実感している。

計画段階では、隣近所が助け合うコミュニティをつくるために何をすればよいのか、町会内で白熱した議論が交わされたが、どれも地域を愛する建設的な意見ばかりで、今思い返せば、その頃が一番楽しかったように思う。

目指したのは、「住民同士が仲良くなるためのスタンドパイプ」だ。

顔なじみのコミュニティは、防災だけでなく防犯にも大きな効果があり、まちの安全・安心にも繋がった。

おかげさまで、去年は「第17回地域の防火防災功労賞」の優良賞を受賞させていただいたが、これにより、地域住民の士気も大いに高まっている。

これからも「わがまちは、わが手で守る」の精神で、住民が蒲田三丁目に住んで良かったと思える地域づくりを目指していきたい。

